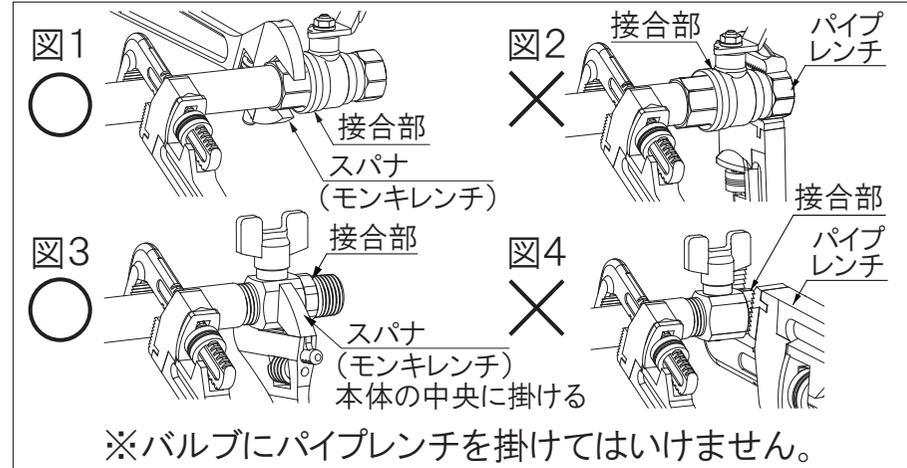


黄銅・青銅製

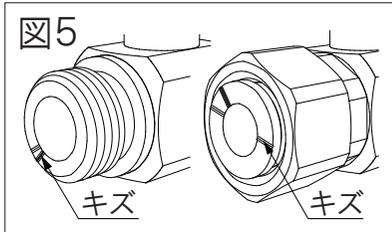
# ボールバルブ 施工者様への注意事項

- この記号は、必ず実行していただく『強制』内容です。
- この記号は、してはいいない『禁止』内容です。
- この記号は、気を付けていただきたい『注意喚起』内容です。

- 70℃を超える湯を常時通水又は循環する配管には、ステンレス製バルブやステンレス製ボール製品を必ず使用して下さい。
- 配管内が凍結する恐れがある場所では、断熱材等による保温又は配管内の水抜きを行い、必ず凍結防止対策を施して下さい。バルブ内部で流体が凍結した場合、バルブを破損させる場合があります。
- 施工の際、図1や図3のように必ず接続対象となるパイプ、又は機器に近い位置の八（六）角、二面幅にスパナを掛けて下さい。図2や図4のような掛け方をした場合、接合部から流体が漏れる恐れがあります。



- 施工前に必ずバルブ及びパイプの内・外部に異物がないことを確認して下さい。
- Gねじ製品は、パッキンシール面にキズがないことを必ず確認して下さい。図5のようなキズは漏れの原因となります。
- バルブは定期的に関閉操作を行うなど、必ず日常点検・定期点検を実施して下さい。



**強制**

**禁止**

- 黄銅（C3604、C3771）製品を埋設してはいけません。農業用等で土壌に触れる転がし配管（半埋設、埋設同等の使い方を含む）も不可です。青銅又はステンレス製品を使用して下さい。
- バルブに配管の応力を掛けてはいけません。過大な力が掛かった場合、バルブの変形や漏れの原因となります。
- 半開状態で使用してはいけません。シートを損傷し、漏れの原因となります。必ず全閉・全開状態で使用して下さい。

**注意**

- バルブの保管・運搬の際は、落下又は衝撃によるキズや変形の発生に注意して下さい。バルブ機能を満足しない場合があります。また、バルブは出荷状態（全開又は全閉）のまま、ゴミ、異物、水等がかからないように保管し、配管直前までその状態を維持して下さい。
- 配管後、シール剤（シールテープ等）がバルブ内に入り込まないように注意して下さい。
- ねじ込みの際は適正締付トルク（表1）で締付け、過大な力を掛けないよう注意して下さい。
- 表1のテーパねじ適正締付トルクは、液状シール剤又はシールテープ（3～5巻）を使用する場合です。2種類を併用する場合やシールテープの巻数が多い場合、適正締付トルクでもねじ込みすぎとなり、割れの原因となりますのでねじ込みすぎないように注意して下さい。

表1 適正締付トルク（黄銅・青銅） 単位 [N・m]

呼び径	1/8	1/4	3/8	1/2	3/4	1
テーパねじ	7～10	10～15	15～25	25～35	40～50	50～60
Gねじ	—	—	—	20～30	30～40	40～50

呼び径	1 1/4	1 1/2	2	2 1/2	3	4
テーパねじ	60～80	75～85	90～110	110～130	130～160	160～200

- ※相手物にも適正締付トルクがある場合は小さい方に合わせて下さい。
- ※Gねじの適正締付トルクはノンアスベストパッキンを使用する場合のトルクです。
- バルブとパイプが異種金属の場合、接触腐食や電食等の発生に注意し、適切な対策を施して下さい。

株式会社 **オンダ** 製作所

URL <https://www.onda.co.jp/>

●営業本部 〒501-3263  
岐阜県関市広見851番地の3  
TEL (0575)24-8585 (代)

商品の技術的なお問合せ専用回線です。  
(ご注文は営業窓口へお願いいたします。)

お客様相談窓口 0120-12-8585

受付時間 9:00～12:00 / 13:00～17:00

(土・日・祝日・夏期休暇・年末年始を除く)